

⑰ 犯罪や事故のない暮らし

20年後に実現したい姿

【犯罪や交通事故を生じさせない安心・安全な社会】

●ソフト・ハード両面での交通安全対策、進化するサイバー犯罪や技術革新に伴い発生する新たな犯罪への迅速な対応が図られ、地域の防犯力の向上と再犯防止の取組により、犯罪や交通事故による被害者も加害者も出さない安心・安全な社会が実現しています。

【消費者被害の発生がない社会】

●消費者被害が防止され、安全な商品・サービスが安心して消費できる社会が実現しています。

【DVを許さない社会】

●DVは認めないという意識が醸成され、DV被害者も加害者も出さない安心して暮らせる社会が実現しています。

4年間の対応方向・具体方策

府民の防犯・交通安全意識の向上や地域防犯力の向上等により、犯罪・交通事故の起きにくい社会づくりを進めます。

- 1 AI等を活用して予測型犯罪防御システムを高度化し、先制的なパトロール等犯罪抑止対策を推進
- 2 「子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト」を創設し、
 - ▶通学路やお散歩コース等の路肩の拡幅やポール設置等の交通環境の整備
 - ▶車両運転者への対策として交通安全教室等を活用するとともに、安全運転サポート車や急発進抑制装置装着の普及を推進
- 3 GISを活用した交通事故の発生原因等の分析に基づく、原因別に重点を絞った交通事故防止対策の推進
- 4 見守り人材の養成やAI等の活用による特殊詐欺等に対する社会全体の防御力の強化や、金融機関等の協力を得た水際対策の強化
- 5 防犯まちづくり賞に学生部門（ユースボランティア大賞（仮称））を設けて活動を活性化
- 6 「再犯防止推進ネットワーク会議（仮称）」を設置し、就労支援等に係る連携と再犯防止等の啓発を実施
- 7 特殊詐欺や性犯罪等の府民に不安を与える犯罪の撲滅、官民一体となった組織犯罪対策の推進、薬物密売組織の壊滅等
- 8 警察署等の再編整備及び建替整備の推進、交番・駐在所の建替整備の推進による機能強化
- 9 サイバー犯罪等からの被害防止に向けた府民啓発や犯罪等に的確に対処できる人材育成・資機材の整備
- 10 警察官の語学力強化等、訪日外国人急増等に伴う事件・事故、地理案内等の事象への的確な対応
- 11 「こども110番のいえ」の整備や住民等の協力を得た「ながら見守り」の推進等子どもの安全対策の強化
- 12 府民協働防犯ステーションを核とした防犯ボランティア活動への支援等地域防犯力の向上
- 13 ペットの散歩やジョギング等の中で行う「ながら防犯パトロール」の推進
- 14 運転免許証の自主返納・反射材用品等の着用促進による高齢者の交通事故防止対策の推進
- 15 無免許や飲酒運転、あおり運転等を行う悪質・危険な運転者の取締りの強化
- 16 全小・中学校等における参加・体験型自転車交通安全教室の開催等、自転車の安全利用の促進
- 17 「京都テロ対策ネットワーク」を活用した官民一体のテロ対策や広報啓発の強化
- 18 少年非行の未然防止活動に係るネットワークの構築や、サイバー補導の強化、立ち直り支援チームによる寄り添い支援

若年者の消費者被害・ネット取引被害、青少年のインターネット利用による性犯罪・児童ポルノ被害等、被害の未然防止に向け、工夫を凝らした啓発活動を進めます。

- 19 インターネット環境を踏まえた青少年の被害の未然防止に向け、青少年・保護者等への啓発の強化

- 20 若年者の消費者被害の未然防止に向け、成年年齢引下げに係る啓発や教員・高校生への消費者教育を実施
- 21 ネット取引被害の未然防止に向け、SNS等でセキュリティ対策やID等の不正利用の実態等を情報発信
- 22 消費者被害の大量発生が想定される場合の警戒情報を発する仕組みを構築するとともに、大学生消費者リーダーの増員養成

犯罪被害者等への総合的な支援を行うとともに、DV、性暴力被害の潜在化の防止やストーカー事案、DV事案等に迅速・的確に対処し、被害者等の安全を確保し、社会的自立に向け支援します。

- 23 DV加害者自らが加害に気づき、加害を繰り返さないための更生プログラムの実施
- 24 デートDV等を許さない啓発、DV相談支援センター職員等への専門研修、面前DVの子どもへの影響に係る啓発
- 25 DV被害者が地域の中で社会的に自立し安心して生活するため、ニーズに合わせた切れ目ない支援
- 26 ストーカー相談支援センターに臨床心理士を配置するなど、カウンセリング機能を強化
- 27 「京都SARA（サラ）」の相談体制の充実、性暴力被害の潜在化防止等、被害の未然防止
- 28 犯罪被害者等の個々の事情に応じた支援や、「ホンデリング」に係る古本回収ボックスの府内全市町村への設置